

〈報告〉

バスケットボールにおける大学男子チームのディフェンス力の分析

—ディフェンスの簡易評価を用いて—

中嶽 誠^{*,**}・久保田洋一^{**}

An analysis of basketball defensive skills at men's university level in Japan

—An attempt to use simple evaluation items in analyzing defensive skills—

Makoto NAKADAKE^{*,**} and Yoichi KUBOTA^{**}

1. 緒 言

本研究は、バスケットボールにおけるディフェンスの簡易評価により、大学男子チームのディフェンス力の分析を目的とした。

バスケットボール競技の大会では、スタッツが公開されたり、ビデオ等によるスカウティングが頻繁に行われている。また、ゲーム分析やパフォーマンスの数量化に関する研究も行われている。しかしながら、これらの多くは、オフENSスに関する要因、情報機器を利用した分析、また複雑で煩雑な分析である。

得点後もプレーが止まることなく、オフENSとディフェンスが交互に連続的に行われるというバスケットボールの特性に着目すると、ゲームにおけるディフェンスの貢献度を簡易的に数量化し評価することは、オフENS力に匹敵する客観的な視点となる。そして、コーチは選手強化やチーム戦術に、選手は活躍・貢献度の目標設定に幅が広がり、ひいては、競技力向上に繋がると考えられる。

2. 方 法

研究 I として、ディフェンス簡易評価項目を「ディフェンスリバウンド (DR)」「ブロックショット (BS)」「スティール (ST)」「インターセプト (IC)」

「ルーズボール (LB)」「テイクチャージ (TC)」の 6 項目に設定し、簡易評価シートを作成した。その記録数値の信頼性を検討するため、J 大学の関東大学男子 3 部リーグ戦全 14 試合を対象に、筆者と J 大学男子バスケットボール部員 2 名 (記録者 A・記録者 B) による合計 3 名で個別に簡易評価を記録した。

研究 II として、作成した簡易評価シートにより大学男子チームのディフェンス簡易評価数値を記録した。対象は第 81 回関東大学男子 1 部リーグ戦全 56 試合とした。また、公開公式記録によりオフENS力の基礎数値を捉えた。

3. 結 果

研究 I について、個別に記録した評価数値の相関分析 (表 1) の結果、全ての簡易評価項目において、0.92~0.98 の非常に高い相関係数が得られ、1% 水準で有意であった。このことにより、記録数値の信頼性は確認された。

研究 II について、まず、公開公式記録を基礎数値として、1 試合平均攻撃回数及び攻撃力指数 1) (1

表 1 3 名の記録者によるディフェンス簡易評価記録の相関係数

項目	筆者と記録者 A	記録者 A と B	記録者 B と筆者
DR	0.96**	0.98**	0.97**
BS	0.93**	0.92**	0.96**
ST	0.95**	0.96**	0.93**
IC	0.95**	0.93**	0.93**
LB	0.96**	0.96**	0.97**
TC	0.97**	0.93**	0.97**

** ; p < 0.01

* 千葉県立成田国際高校

Narita Kokusai High School

** 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科

Graduate School of Health and Sports Science, Juntendo University

表2 各チームの1試合平均ディフェンス評価項目数値(点)と勝数(勝)並びに相手攻撃力指数(点)

順	チーム	勝数	DR	BS	ST	IC	LB	TC	相手 攻撃力指数
1	A	13	74.6	13.1	16.1	20.6	14.4	0.6	0.79
2	B	12	74.4	12.3	14.6	18.4	12.4	1.9	0.78
3	C	8	67.9	13.5	17.9	15.9	11.5	0.3	0.81
4	D	6	68.9	8.1	9.8	16.4	8.7	2.8	0.87
5	E	6	62.6	14.5	13.3	18.6	13.1	0.9	0.89
6	F	6	71.8	10.2	15.8	18.9	11.4	1.6	0.85
7	G	5	69.7	11.1	16.0	13.5	15.3	2.0	0.88
8	H	0	59.9	8.6	15.0	17.4	12.4	1.1	0.96
	平均		68.7	11.4	14.8	17.5	12.4	1.4	0.85
	標準偏差		5.3	2.3	2.4	2.2	2.0	0.8	0.06
	相関係数(勝数)		0.83*	0.58	0.17	0.46	-0.16	-0.18	
	相関係数(指数)		-0.85*	-0.53	-0.28	-0.31	-0.04	0.17	

* ; $p < 0.05$

回のオフェンスにより獲得する点数)を算出しオフェンス力の指標を捉えた。

関東男子大学1部リーグにおける、1試合平均攻撃回数は90.4回であった。この結果、1回平均攻撃時間数は13.3秒となった。

また、攻撃力指数とチーム順位との順位相関係数は、 $r = 0.97$ であり、攻撃力指数の高いチームが上位順位にある傾向が確認された。

次に、各チームの1試合平均ディフェンス評価項目数値とリーグ戦勝数並びに相手攻撃力指数を表2に示した。ディフェンス評価項目数値と勝数並びに相手攻撃力指数との相関関係は、以下のような結果となった。

① ディフェンスリバウンドは、有意 ($p < 0.05$) な相関が認められた。

② ブロックショットは、中程度の相関係数を示したが、有意な相関は認められなかった。

③ インターセプトは、弱い相関係数を示したが、有意な相関は認められなかった。

④ スティール・ルーズボール・テイクチャージは、相関が認められなかった。

4. 考 察

ディフェンスリバウンドは、有意 ($p < 0.05$) な相関が認められた。つまり、ディフェンスリバウンドは、リーグ戦勝数並びに相手攻撃力に影響を与えており、ディフェンス力評価の指標として有効であることが示された。

また、本リーグ戦における各チームのディフェンススタイルは、ハーフコートマンツーマンディフェンスが主流であった。さらに、1回平均攻撃時間が13.3秒というアップテンポなゲーム展開であった。

つまり、安易なボール奪取は行わず、1対1の場面の中で自分のマークマンに責任を持つディフェンスであり、確率の低いシュートをさせ、その後のリバウンド確保に重点を置いている。

したがって、シュート確率とディフェンスリバウンド確保がゲームの勝敗を左右しており、シュートエリアでの短時間の攻防が重要場面であることがわかる。そして、ブロックショットは有意ではないが中程度の相関係数を示していた。ファールを恐れてブロックショットを試行しないケースもみられる。しかし本リーグの特徴を踏まえると、ブロックショットの技術向上は、シュート直後に出現するディフェンスリバウンド確保とあわせて考えても、ディフェンス力向上が期待できると考えられる。

5. 結 論

① 作成した評価シートは、簡易的なディフェンス評価として活用できる。

② ディフェンスリバウンドは、勝敗に関わる要因であり、ディフェンス力評価の指標となる。

③ ブロックショットは、ディフェンス力向上への発展性が示唆された。

(当論文は、平成20年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の修士論文を基に作成されたものである)

文 献

- 1) 吉井四郎：バスケットボールのコーチング 戦法・作戦編，第11版，309，大修館書店：東京（1986）

(平成21年3月31日 受付)
(平成21年3月31日 受理)